

開 会（午後１時３０分）

○大石健一委員長 皆さん、こんにちは。

出席委員数が定足数に達しておりますので、ただいまから総務経済常任委員会を開会します。

**○所管事務調査「リノベーションまちづくり、まちづくり会社」
「産業振興ビジョン」**

○大石健一委員長 それでは、議事に入ります。

所管事務調査「リノベーションまちづくり、まちづくり会社」「産業振興ビジョン」を議題といたします。

参考人より、お手元に配付したとおり、資料の提出がありましたので、御了承願います。

それでは、参考人の意見陳述及び質疑に入ります。

本日は、参考人として所沢和ヶ原商店街組合専務理事、大坂和則さんに御出席をいただいております。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のために御出席いただき、誠にありがとうございます。委員会を代表して、心から御礼を申し上げますとともに、忌憚のない御意見を述べていただきますようお願い申し上げます。

○大坂参考人 皆さん、こんにちは。

和ヶ原商店街の大坂と申します。よろしくお願いいたします。

今日は商店街を代表して、御意見を述べさせてもらいたいと思います。

所沢和ヶ原商店街振興組合は、レジュメのとおり、平成元年10月10日に法人登記しました。10月10日、トマトみたいな形で、トマトのマークがイメージキャラクターになっています。法人設立前も商店街自体はあり、御存じの方もいるとは思いますが、駅から5分くらい離れていて、住宅地の中にある昔ながらの商店街になります。

私は15年くらい前に商店街に来させてもらって、そこからずっと、ほとんど変わらないですけれども、やはりお店の入れ替わりだとか、高齢化に伴い店舗を辞めてしまったりだとか、そういったところがあって現在に至ります。

全体の店舗数は約60店舗で、そのうち商店街に加盟している店舗が現在は34店舗になります。

商店街の事業としては、トコちゃんカードという独自のポイントカードをずっと以前から、もう30年くらいになりますけれどもやっています。また、商店街の街路灯だとか、あと、昨年、所沢市の補助金と埼玉県補助金を頂きまして、防犯カメラ等も整備させていただきました。

また、イベント事業として、大石委員長とかと一緒にお化け屋敷をずっとやり続けていたり、あとハロウィン、それから、以前からの独自の事業で宝くじ事業だとかをやらせていただいています。

コロナ前までは年6回くらいやっていましたが、コロナが明けてからは役員の意識も大分下がってしまって、大体年2回のイベントになっています。

また、教育事業として、ほかの商店街に見学に行ったりだとか、講習をしたりだとかというのを埼玉県中央会の補助をもらいながらやらせていただいています。

令和3年2月に、商店街にもともとあった建物を商店街複合化施設として、チャレンジショップとして整備させてもらっています。

また、商店街自体で辞めてしまった店舗だとかが住宅会社とかに店舗を売ってしまって、そこが住宅になってしまって歯抜けになることを防ぐために、商店街でその土地とかを全部購入しようという案がありましたが、商店街の意見を取りまとめられずに、商店街としては購入できないというのもあって、令和5年8月に、商店街の40代くらいの店主が4名集まって、わがはらまちづくり合同会社をつくりました。そこが空いた店舗とかを買い取ったり、借り上げて転貸したりとか、そういった事業をやっています。

また、その合同会社だけで、ほかの事業をやるのは難しかったので、先月、株式会社和ヶ原商店街という会社を立ち上げています。

今後の予定としては、まだ予定ですが、商店街のトコちゃんカードを、今年度所沢市がやっているとこペイのアプリとうまく連携させてもらって、そこにトコちゃんカードを組み入れたいなというのがあります。

また、来週が県の補助金のプレゼンの日程ですけれども、令和8年2月に、インキュベーション施設を商店街に整備して、商店街の新たな担い手をつくり上げたいなと考えています。

今、商店街が目指すものとしては、和ヶ原地域の65歳以上の高齢者の人口が今33.2%、そのうち75歳以上が21.何%というデータをこの前見て、高齢者が住みやすいまちづくりというのをテーマにするのと、その高齢者が住みやすいまちづくりと同時に、3世代が交流できる商店街として動いていきたいなと思います。

また、西武線沿線にはない特色あるまちづくりをそのインキュベーション施設でできないかなと、今、模索しているところです。

市に要望することとしては、大分商業観光課のほうでお世話になっていまして、いろいろ一緒にやっています。また、商業観光課のほうにお願いした空き店舗補助金等も、昨年、こういった形にしてほしいという要望を出したら、今年度はそうしてくれたので、大分ありがたく使わせてもらっています。

今年度でいくと、やはり経営企画課のとこペイを何とか商店街のトコちゃんカードをそこに組み込めるようにしていきたいなというのがあります。トコちゃんカードは20年くらい前のすごく古い機械にカードを入れて、トコちゃんの顔が書かれていくのですけれども、その機械を販売している会社と修理している会社が倒産してしまって、また別の会社が管理しましたが、その会社もまた倒産してしまって、結局、今、それができる会社がなくなってしまって、昨年、アプリにしようということで、春日部市か何かの商店街に行って、それと同じ

ようにやろうかなと思って予算を立てましたが、単純にやろうとしても1,000万円くらいかかりそうな感じで、とこペイの話を聞いて、大分お金を抑えられるというか、うまく組み込んでもらえるようだったら、ほぼお金をかけずにできそうなので、その分を販促に充てられればいいかなと思って、ぜひお願いしたいなと考えています。

【参考人意見陳述終了】

【参考人への質疑】

○末吉美帆子委員 ありがとうございました。

買い物バスというのは自費で出されていて、効果がどんな感じなのかというのを伺います。

○大坂参考人 ありがとうございます。

買い物バスですが、もう6年か7年くらい継続してやっています。今現在もやっていますが、利用者がすごく多いのが、金曜日の三ヶ島地域だとか、狭山ヶ丘駅の西側のほうは、登録者が今45名くらいで、定期的な利用者が20名くらいで、御自宅から商店街まで、ドア・ツー・ドアでお運びしている形です。

TAIRAYAのすぐそばのチャレンジショップのところが停留所になっていまして、そこで買い物を終わった方が待っている感じです。

利用者の皆さんにもすごく喜ばれていて、ただ、やはり高齢者が多いものですから、そのまま施設に入ってしまったらとか、そういった方もいるので、減ったり、増えたりしており、金曜日は40名くらいになっています。

月曜日は、利用者的には大体10名登録の1日5名くらいが使っているかなという感じです。

今、これを使っている方は独り暮らしの方だとかが多いのですけれども、この買い物バスを利用して出てくる以外、誰とも一週間話さないとか、そういった課題ももう何年か出てきているので、実は商店街の近隣の空き家だとか、そういったものを使って、高齢者向けのシェアハウスを考えている最中です。

○石原 昂委員 貴重なお話ありがとうございました。

令和8年2月からのインキュベーション施設整備のところで、6店舗集まってきたということで、店舗を呼ぶときの誘致活動だとかPRはどのように行われたのかということと、あと、この商店街が目指すものの中で、高齢者が住みやすいまちづくりと先ほど来おっしゃっていただいていますけれども、何かそういうコンセプトに合うような業種、業態を呼んだのか、実際、この6店舗とはどういうものなのか、教えていただけますでしょうか。

○大坂参考人 ありがとうございます。

まず、インキュベーション施設ですけれども、まだ入居者が決まっているとかではなくて、

小規模店舗を6店舗つくる、箱をつくるということですが、実際もう問合せ自体は来ています。集める方法としては、今、商店街のすぐそばに西武信用金庫という信用金庫がありますが、そこともう5年くらい、このまちづくり会社をつくったときと同じくらいから連携していきまして、そこで、所沢市の商工会議所がやっている創業セミナー、そこで、商工会議所と連携して、スタートアップの企業を集める予定で、6月にやったときに、一応できる予定という形で御案内させてもらって、3件くらい問合せが今来ている最中です。

あと、近隣で福祉法人がつくる団体からの声かけがあって、そこに入れ込む予定です。

ただ、商店街で今足りない業種だとかを優先的に検討したいなとは思っています。

あと、高齢者が住みやすいまちづくりに関しては、基本、その福祉法人が、自分もちょっと中には入りますが、それを入れて、包括的に見ていく予定です。

○石原 昂委員 ありがとうございます。

商店街が目指すもののもう一つに、西武線沿線にはない特色あるまちづくり、スピリチュアル関連、ちょっと読んだだけだとなかなかイメージが湧かないですけども、こういった構想をお持ちなのか、お示しいただければと思います。

○大坂参考人 ありがとうございます。

今、商店街に加盟はしていませんが、アクセサリ屋さんというか、天然石みたいなものを売っているところの拠点があります。その人たちもそうなんですけれども、東所沢のほうにUF0カフェというのがあって、その人が入りたいと言ってきたので、今度、中氷川神社で10月に何か開運イベントみたいなものがあるみたいで、その主催者がここに入りたいということで、この前打合せをしてきて、まだやるかどうかは分かりませんが、カフェなどがメインにはなるのかなとは思っています。

○中井めぐみ委員 ありがとうございます。

先ほどの御説明の中で、空き店舗を住宅にされないようにということで、わがはらまちづくり合同会社を設立されたというお話がありましたが、今空き店舗はどれくらいあって、増えている傾向にあるのかどうかと、あと、その空き店舗を買い上げて、先ほどもおっしゃっていましたが、事業にすることが大変なのかどうかと、なかなか店舗が入らないとか、そういう大変なことがあったら教えていただきたいと思います。

○大坂参考人 空き店舗数に関しては、ほぼ横ばいです。大体五、六店舗がずっとここ10年くらい続いている感じです。そこで出たり、そこに入ったり、また、別のところが入ったりとかで、大体数的にはそのくらいになります。

ただ、問題点としては、住んでいる方が2階に住んでいまして、下を貸さないというか、貸したくないが多いのかなとは思いますが、そこを何か商店街として、この前、このインキュベーション施設を造るといっても、一応全店、シャッターが閉まっているところは回り

ましたが、やはり貸せない、貸したくないという状況で、多分、相続などそういったところがタイミングになるのかなとは思いますが。

合同会社をつくって、今、土地を買って、建物を建ててとかやっていますが、実際、今、入ってくる店舗とかというのが、マッサージ屋さん美容室がもうあふれるくらいになっていまして、物販店は、時代にもなるのかなと思いますが、なかなか入ってこないような状況なので、今回造る施設は、中屋米店さんというちょっと大きいところの店舗を縮小させてもらって、1階の一部も借りて、そこに、飲食とかで入らない理由というか、初期投資がすごいかかるのかなというのもあるので、今回の事業の中で機械とかもちゃんと整備してあげたものの貸出しをしようと思っています。

大変なところは、一定の業種しか入ってこないというのがちょっと課題なので、そこを今回の事業でどうにかしていきたいなと考えています。

○長谷川礼奈副委員長 ところペイとトコちゃんカードの連携のところで、すごくいい取組だなと思いますが、高齢化が進んでいる中で、アプリにするのをやめてほしいみたいな声とかはありますか。

○大坂参考人 もう何年も前からその話をしていまして、それをやるならやめるとかと言っていた店舗も、ところペイには参加していたので、多分大丈夫ではないかなとは思っていますが、ただ、利用者のほうの問題のほうがちょっと大きいかなと思っていて、そこを解決するために、定期的なスマホの講座とかを商店街でできないかなと思っています。それを今回のインキュベーション施設の中でもできるようにしたいなと考えています。

○大石健一委員長 この際、委員として質疑したいため、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長の職務を行います。

○大石健一委員 所沢商業高校がありまして、商店街をずっと歩いていくと、所沢商業高校にぶつかるので、もともと通学している所沢商業高校の生徒が多いと思うんですよ。

これまでも、まず、和ヶ原商店街では、所沢商業高校と、教育機関として活動するという事でやられた取組について御紹介をお願いいたします。

○大坂参考人 自分が所沢商業高校の評議員を10年以上やっていまして、連携はもうそのときからずっとやっています。

今だと、所沢商業高校の生徒と和ヶ原商店街の中の店舗、3年くらい前からやり出したのが、生徒と共同で商品開発をして、それを販売するというのを商店街でやっています。かめだやさんという和菓子屋さんとかセキ屋さんと花屋さんとかフレンチレストランのボヌールが毎年1回、商品開発を生徒とやって、文化祭のときに販売をしていたりだとか、トコロードのチャレンジショップを使って生徒が販売していたりだとかというのをやっています。

あと、連携にはなりますが、狭山工業高校が作っている狭紅茶、それを所沢商業高校の生徒がパッケージをつくって、それを販売というのをおとしの読売新聞か何かに初めてやっていましたが、それ以降、年1回、チャレンジショップを使ってやっています。

高校連携がそこから大分広がっていきまして、川越総合高校の卵を使ったりとか、あと、川越の養護高校、そことも連携して、今、高校5校が連携したものを商店街で販売しています。

○大石健一委員 ありがとうございました。

所沢商業高校の倍率が1倍を切ってきてしまったので、ひょっとしたら統廃合されてしまうのではないかという危険性があるので、もっとあそこの高校が魅力的になるように、一緒に取り組んでいけたらと思います。

もう一つの質問は、都市再生推進法人につきまして、このわがはらまちづくり合同会社になれば、例えば、河川の上の公共空間を活用したマルシェを開催したりとか、それから、公園を管理したりとか、そんな公共空間の利用ができるかと思います。また、信用金庫から御紹介いただいている民都機構などの融資、こういった部分についてのメリットについてのお考え、どんなことをやりたいかをお聞かせください。

○大坂参考人 実際、その民間都市開発推進機構には、基本、まちづくりの会社はなれると言われまして、所沢市に一回、大石議員にお願いして、なりたいたったのですけれども、所沢市はまだやっていないみたいなことがあって、実際、それによって、商店街の近郊の公園と、あと市が所有している遊歩道、そこを使って様々なイベントもそうですが、近隣との連携、先ほどの高校との連携もそうですけれども、そういったことの活用を進めたいと思っていますので、ぜひ、所沢市としてもそういった取組を推進していただきたいと思っています。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長と交代します。

【参考人への質疑終結】

この際、大坂参考人に対し、委員会を代表して、一言御礼を申し上げます。

本日は、お忙しい中、本委員会のために御出席いただき、貴重な御意見を述べていただき、心から感謝いたします。

本当に、日曜日とこの海の日との間のときに御参加いただいて、心から感謝申し上げます。

本委員会といたしましては、いただいた御意見を今後の委員会調査に生かしてまいりたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

ここで、暫時休憩します。

休 憩（午後1時58分）

再 開（午後２時１分）

○大石健一委員長 再開します。

本日は、参考人として、東所沢商店組合組合長、二宮雄作さんに御出席をいただいております。

本日は、お忙しい中にもかかわらず、本委員会のため御出席いただき、誠にありがとうございます。

委員会を代表して、心から御礼を申し上げるとともに、忌憚のない御意見をお述べくださいますようお願いいたします。

○二宮参考人 こんにちは。

東所沢商店組合組合長の二宮雄作と申します。

前組合長の大石和豊さんから今年の３月、４月の間で組合長が交代して、自分となりました。まだ組合長になって４か月くらいしかたっていないので、質問で答えられないところがあったら、御容赦願いたいなと思っております。

東所沢商店組合は2018年に設立されました。

東所沢は、東所沢一丁目から五丁目まで、さらに東所沢和田が一丁目から三丁目までありまして、そちらの事業者が結束しまして、地域活性化、安全、美化を目的にスタートしております。

2019年からは、各自治体に対しての挨拶回り、盆踊り、祭りなどの参加、設営、運営を支援しています。プラスアルファで、滝の城の地域も含めて設営などを行っています。

そこから、街路灯、防犯カメラ、あとは、年４回の美化清掃もやっております。

イルミネーションは、2021年にクラウドファンディングをして、東所沢の駅を少しでも明るくしようという形で、冬の時期、イルミネーションを５年間続けております。

あとは、東所沢マルシェというものをやっています、今は年２回、６月と12月に行っております。東所沢マルシェでは、主に飲食とか、ハンドメイド、あとはビンゴだったりとか、そういうもので結構集まるような形で、大体１万人近く集まっております。

各地域のお祭りも大分、2024年、2025年、2026年、今年も結構信用を勝ち取りまして、いろんなところから協力要請があって、それに対して、商店組合のメンバーで集まって、お祭りを盛り上げていくというような活動をしております。

東所沢商店組合は、2018年以降、2025年まで、東所沢を住みやすく、訪れたいようなまちにすることを軸にして活動してきた組合の中で、大石組合長から、「二宮君、やってくれ」と言われました。自分自身が、2022年から東所沢商店組合に参加するようになりまして、最初は、それこそ、まちに対してお金を払うだけではありましたが、東所沢商店組合はとに

かく年齢層が結構若いので、皆さん、すごく活発的にやっている中で、いろんなところに声をかけていただいて、それで、協力する中で、ぜひ、二宮君にやってほしいという流れで、自分に引継ぎました。

その中で、自分は、東所沢商店組合は何のためにあるのかというところを知らないとなかなかそういう活動はできないということを伝え、何のためにあるのですかと聞いたところ、組合に入ってくれている商業者、事業者にとってメリットのある組合にしていきたいという形を、その当時の組合長の太田さん、副組合長の保坂さんだったりとか、そういう方たちから、そういう言葉をいただきまして、自分の代では、まず、組合員一人一人の事業者の認知度を高めることに取り組んでいきたいと思っております。

その第一歩として、今、補助金の申請をさせていただいているのですけれども、東所沢商店組合のマップ、今、64事業者あるのですけれども、飲食店に限らず、いろんな組合の方たちがどのような活動をしているのかというところを一つのマップにして、皆さんのところに配布して、美容室だったりとか、いろんなところに配布させていただいて、一つ一つの事業所の認知度を上げていくような取組をしていきたいなと思っております。

自分自身、昔、とことこマップの実行委員もやっていたり、あとは新所沢のマップだったりとか、ああいうイメージです。あれは紙ベースで、すごく認知度を上げられるものになってきますので、これから地域を盛り上げるだけでなく、組合員一人一人の商売を盛り上げるということをテーマにして活動していきます。

要望の部分ですけれども、1つ目は、公共スペースを活用した組合員のPRとか紹介です。なかなか、市の部分で、使っていない看板があるから使っていいよみたいな形で、松本さんから言われたりとかありますが、組合員の紹介という形になってしまうと、どうしても営利目的になってしまったりとか、そういう部分があると思うので、そこはお話を合いをしていながら、活用させていきたいなと思っております。

あとは、東所沢駅のロータリーが2つあります。バスロータリーとタクシーロータリーがありまして、その部分に関しては、マルシェのときはバスロータリー側と、あとマルシェ広場と、2つで開催をしまして、その中で、今、イルミネーションがすごく盛り上がっているのです、今年、ロータリーの名前をつけませんかみたいな、バスロータリー、タクシーロータリーという形なので、何か、そこに対してマスコットキャラを組み合わせたりとかして、ロータリーの名前を決めたりとかすると、もっと活性化していくのではないかなという意見があります。

ロータリーの名前とか、キャラクターの名前みたいなものをこどもたちから募集をして、次の12月のマルシェに発表して、それを市の方と共有して、認知度を上げていけたらいいなと思っております。

その中で、どうしてもイルミネーションの中でネックになっているのが電源確保です。現状は、民間3事業所さん、新倉不動産さんとか、ヤナセ住販さん、あとはカレー屋さんのカシミールさん、こういう方から電気を借りている状態になってしまっているのです、イルミネーションはやはりまちを活性化していくためには、どうしてもコロナの時代から、暗い、その節電だったりとか、コロナとか、あとは震災の後、暗いまちはなかなか人通りが少なくなってしまうので、どうしても電源確保して、まちを明るくすることがすごく大事になってくると思うので、市のほうでそういう電源みたいなものをいただけるとすごく助かるなというのが一つと、あとは、マルシェをやったときの後のごみ、今、美化清掃のごみに関しては、市役所の方から引き下げていただいているのですけれども、マルシェとかもやはりまちのためにやっているものになっているので、今はマルシェの資金から木下フレンドさんに委託をして、運んでいただいている形ですけれども、この部分に関しても、市のほうでできたらすごく助かると思っております。

あとは、やはり置場です。イルミネーションの終わった後の置場だったりとか、各テントの置場だったりというのも、実際には、借りているところがあって、できることなら、今、そのマルシェ広場があると思うのですけれども、あそこの倉庫を1つだけでも貸していただけたりとかしたら、その終わった後の片づけは皆さんボランティアでやっていますので、ダンプで運んでという作業をしているのですけれども、何かそういう部分で、あそこの場所がこれからどのように使われてくるかは正直分らないのですけれども、その部分があるとすごく助かるなと思っているのがイルミネーション、マルシェの部分です。設置、撤去と場所確保だったりとかになります。

あとは、行政が管理する場所の地域活用ということで、まだ本当に東所沢というのは伸びていくまちになっていくと思うので、その中で、ここで活動していいよという場所があったら、その部分を教えていただきたいというところです。

あとは、これからマップの作成に来年度入ってくるのですけれども、それに当たっての設置だったり、配布だったりとか。例えば、市役所に置かせてもらうとか、そういうマップをどんどん広めていけたらいいなと思っているので、その部分も御相談させていただけたらなと思っております。

【参考人意見陳述終了】

【参考人への質疑】

○末吉美帆子委員 本来にありがとうございます。

先ほどは和ヶ原商店街さんの話を伺ったのですけれども、皆様のほうは、例えば、KADOKAWAさんだったり、木下フレンドさんだったり、様々な業種の方が集まっておられると

ということで言えば、おっしゃるように、東所沢はさらにこれから発展していくと思うのですが、最終的に、東所沢という面としてみんなで盛り上がっていきたいのか、それとも、商店街みたいに一つ一つが輝く感じなのかとか、目指していくところがどんな感じのイメージなのかというのを教えていただけたらということが1点と、それから、先ほど、イルミネーションという話があったのですが、例えば、このイルミネーションを環境にいい廃食の油でやる取組というのがあって、滋賀県東近江市で毎年やっていて、私、何年も通っていたことがあるのですが、最近は私も滋賀県のほうに行っていないんですが、そういった環境に優しい、電気を使わない取組なんかは検討されたりとかしたことはあるのでしょうか。電気を使ってはいけないとか、そういうことではないんですけれども、捨ててしまう油を使ったイルミネーションというものがたくさん見に来ている人たちにとても気持ちのいいものだったので、これからの中で、環境クリーン部とか、そういうところと一緒にやってくれたらいいなと思うのですが、研究していただけたらなという気持ちもありまして、質問させていただきました。

○二宮参考人 本当に東所沢の商店組合は、入ってくる人が多くて、その中でやはり、質疑にそのまま答えますと、面としてもうどんどんやっていきたい。それこそ、飲食店とかも物件を探している人のほうが多いのではないかなと思っております。

その中で、東所沢と東所沢和田というのは、自分たちはそこまで分からないのですが、歴史がやはりあるみたいで、ただ、その中で、東所沢と東所沢和田を一つにまとめたいくらの気持ちで商店組合はできていると聞いています。

あと、環境問題、そのイルミネーションの部分は分からないのですが、今、同じ活動をしているバイスリンクの宮下さんという方がいらっしゃるのですが、その方が、ペットボトルを再生させてごみ袋を作るというようなことを今結構大規模でやり始めてまして、なので、そういう取組をしていって、それを広めていって、環境問題の部分に関しても、こういうふうな活動をしていますよということを言えるような形にしていきたいなと思っております。

○大石健一委員長 この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長の職務を行います。

○大石健一委員 今日はありがとうございます。

COOL JAPAN FOREST構想というのがございます。ところざわサクラタウンが整備をされました。それに伴って、大石和豊さんとか、当時の中村太元議員とかと話しまして、商店街をつくろうと、そのときに私もメーリングリストに入っていたのですが、大石和豊会長と中村太元議員などのおかげで、こうやって商店街が膨らみまして、今は、松本議員も一生

懸命活動されているところです。

もちろん、きっかけとなったのは、COOL JAPAN FOREST構想、ところざわサクラタウンで、今、最も東所沢のこの商店街がマンパワーで、若さで、熱気であふれている商店街です。所沢市内で一番のマンパワー、平均年齢若くて、マルシェを自分たちでやろう、イルミネーションを自分たちでやろう、いろんな町内会の夏祭りを手伝いに行こうとか、滝の城まつりを手伝いに行こう、松本議員や亀山議員とかの導きがあって、いろいろやっています。

今現在、KADOKAWAとの連携はどうかと思ひまして、きっかけができて、初めてここに商店街ができたのですけれども、ゴールデンウィークとか、やはり歩いてみると、今までは東所沢は人がいなかったですけれども、人通りはかなり増えています。これは事実だと思ひますし、もちろん、開智学園とかができたりして、こどもたちも増えたりとかしているわけですから、それに伴って、ところざわサクラタウンとの連携はうまくいっているかどうかです。

どんなことをやっているかとか、ここのところが課題かなと思ひているとか、率直に思っている、考えていることを、我々、COOL JAPAN FOREST構想を推進しようとやってきたので、所沢市でも一丁目一番地の中で、今現状どうなのかと、地元でどう皆さんお考えになっているのかというのをお聞かせいただきたいと思ひます。

○二宮参考人 なかなかデリケートなものですけれども、KADOKAWAの社員の方とかでも、東所沢商店組合に実際に入ってくれている方もいらっしゃるし、現副組合長で、角川クラフトの小島さんという方も一緒に活動していますが、ちょっと前に比べたら、その部分の連携というのは薄くなっているかなと思ひています。

もともとわん祭りとかも、KADOKAWAの場所を使わせていただいたりとかはしているのですけれども、KADOKAWAの方とお話をして、何かを一つ成し遂げるというところは、今のところ少ないかなと思ひています。

○大石健一委員 それでは、所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOというのが市の施設でありまして、以前は、松本議員を含めてなのですからけれども、商店街との連携みたいなことをしていたのですが、YOT-TOKOのメンバーが会議に参加したりとかしてやっていたのですけれども、その後、所沢市観光情報・物産館YOT-TOKOと商店組合というのは連携できているものでしょうか。どんなことをやっているかとか、もしあったら、教えてください。

○二宮参考人 YOT-TOKOさん自体は、自分もYOT-TOKOさんに納品はさせていただいているのですけれども、実際にYOT-TOKOさんと一組合の事業所というような形にはなっているかなと思ひます。

○大石健一委員 会員にはなっているけれども、なかなかということでしょうか。

○二宮参考人 そうですね、はい。

○大石健一委員 ありがとうございました。

次の質疑は、駅の近くに、マルシェをやっているマルシェ広場と呼んでいる所沢市の市有地があって、中村太元議員も、そこを何とかしろということではおりましたが、松本議員もおっしゃっておりますが、そのところをもうちょっと何かこうしたいとか、先ほどは倉庫を建てたい、倉庫があったら一番いいだろうということですが、そのほかにも何か皆さんで市の持っている土地を活用したいというお考えをもう少し詳しく説明していただければありがたいので、お願いします。

○二宮参考人 前回のマルシェのときに、農家さんと呼んで、東所沢で実際取れている農作物を直でお客様に、どうこの食材を使えばいいかとかというのを答えながら販売していたのがすごく、お客様に対してもメリットがありまして、農家の方も認知度が上がったりとか、野菜を知ってもらおうということがあったりとかしていたので、そういう活動を土地でもっと短いスパンでできたらいいなと思っているのと、やはり置場の部分で言うと、かなり広いので、あそこの部分がそういうお祭りとかの拠点になってくれるといいなと思っていますし、マルシェだけでなく、今はもう自治体のお祭りに手伝いに行くような形なので、東所沢商店主催のお祭りが1つできたらいいなと思っております。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長と交代します。

○末吉美帆子委員 ありがとうございます。

KADOKAWAはコロナの真っ最中にちょうどオープンをしたということがあって、その前のKADOKAWAが所沢に来るといときには、非常に燃えて、頑張る、いろんなことをやりたいんだということをずっと私たちにもお話しいただいていたものが、何か出ばなをくじかれたみたいなことがたくさんあったのかなと思っていて、YOT-TOKOもそうですし、KADOKAWAさん自体とも、何かまだ最初に思っていたポテンシャルと全然違うのかなという印象を受けています。

あそこの川沿いの整備であったりとか、いろいろ進んでいるかと思うのですが、あそこら辺も含めて、どうやったら盛り上げていけるのかとか、そういう要望とか、アイデアとか、何かございますか。あればぜひ教えていただきたいです。

○二宮参考人 サクラタウンと言うくらいなので、桜がすごくきれいで、そういうところはKADOKAWAさんと東所沢商店組合と桜祭りとか、何かそういうネーミングで、駅からサクラタウンに流すような形が取れたらいいなと思います。

それは大規模になってきますので、そこは慎重に進めていけたらなと思っております。

○末吉美帆子委員 それは、例えば、誰がやればいいということもないですが、例えば、市に言いたいとか、KADOKAWAに言いたいとか、何かありますか。

○二宮参考人 スピード感があるとすると、商店組合がハンドルを握ってやると、スピード

感はあるかなと思っております。

○末吉美帆子委員　開智学園ができて、かなり駅が変わったと思うのですけれども、その影響とか、連携とか、ありますか。

○二宮参考人　開智学園もそうですが、東所沢が伸びた要因は、恐らくですけれども、飲食店だと思います。もともと、のもさんという大衆酒場があって、うちが今、だるまという、今5年目になるのですけれども、そこから大衆焼き鳥屋、結構大箱の焼き鳥屋さんが、その後、にしだ場さん、とさかさんとか、一気にドバっと増えました。そうなってくると、東所沢の人は東所沢で飲むので、飲食店が盛り上がっていくと、それだけ人も増えてくるみたいな、そういうところがあるかなと思っています。

○中井めぐみ委員　どうもありがとうございます。

ところざわサクラタウンができて、多分、皆さん、サクラタウンのほうに東所沢から出て、行ってしまうかと思うのですけれども、駅から南側のお店の方たちへの影響とか、サクラタウンができてあったでしょうか。

○二宮参考人　サクラタウンのお客様は、基本的にお昼のお客様が多いかなと思います。外国の方もお昼に飲食される方は結構多いので、夜はそこまで実は影響はないかなと思っています。

駅を出て左側のテナントも、空いたらすぐ埋まるような形なので、それに対しての需要はたくさんあるのではないかなと思っています。

【参考人への質疑終結】

この際、二宮参考人に対し、委員会を代表して一言御礼を申し上げます。

本日は、お忙しい中、本委員会のために御出席いただき、貴重な御意見を述べていただきまして、心から感謝を申し上げます。

松本議員がよく一般質問のところで、亀山議員もそうですが、されておりますけれども、我々も、きちんと、いろいろな地元に対しまして勉強させていただきたいと思いますし、本日にこの連休の合間に来ていただきまして、心より感謝をいたします。

本委員会といたしましては、いただいた御意見を今後の委員会調査に生かしてまいりたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

ここで、暫時休憩いたします。

休　　憩（午後2時26分）

再　　開（午後2時30分）

○大石健一委員長 再開します。

それでは、理事者側より概要説明をお願いします。

産業振興ビジョンの説明をここでしてもらいます。

○石川産業振興課長 私のほうからは、所沢市産業振興ビジョン及び所沢市産業振興ビジョンの推進会議について、簡単に御説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

所沢市産業振興ビジョンは、所沢市の最上位計画であります第6次所沢市総合計画のうち、産業経済分野の実現に向けた個別計画という位置づけになっております。

計画期間を10年間としておりまして、計画を推進するための主な事業をアクションプランとして定めております。前期アクションプランが5年間、後期アクションプランを5年間といたしまして、今年度は後期アクションプランの4年目となっております。

後期アクションプランが令和9年度で終了しますことから、令和10年度以降の第2次計画の策定が必要となっております。

初めて産業振興ビジョンを策定いたしましたのが平成30年度になりまして、当時からはもとより、後期アクションプランとして改定を行いました令和5年度と比較いたしましても、現在の社会情勢は大きく変化しております。第2次所沢市産業振興ビジョンの策定に当たりましては、その方向性について、現在の社会情勢や所沢市が将来目指す姿を踏まえまして、産業振興ビジョンの推進会議や産業関連団体の御意見、市内事業者等のヒアリングの内容等を参考にしながら、改めて産業振興における将来像や基本方針を検討し、見直しを行ってまいります。

次に、所沢市産業振興ビジョン推進会議について御説明いたします。

産業振興ビジョンの改定に当たりましては、本ビジョンの実現に向けて協議を行うために設置されました学識経験者や産業系関係団体、公募市民で構成されております所沢市産業振興ビジョン推進会議において協議を行っていただく予定でございます。

こちらの推進会議でございますが、重点推進事業を中心といたしまして、進捗状況の確認や施策の課題検討、事業に対しての意見、提案等を行うことにより、産業振興ビジョンを推進させることを役割として担っております。

そのために、産業振興ビジョン推進会議におきましては、例年3回程度、定期的にお集まりいただきまして、所沢市産業振興ビジョン実現に向けて、委員が所属する各主体が進める産業振興施策や事業の進捗に関する情報を共有するとともに、地域産業の活性化に係る問題点や課題、施策の方向性等について検討を行っており、事業成果の検証等を踏まえまして、具体的な施策に対する意見交換や市政に対する提案をいただいているところでございます。

今年度におきましては、推進会議におきまして、施策に対する意見交換や提案以外にも、計画策定を行うこととなっております。

ビジョン策定のために新たな組織を立ち上げるよりも、日頃より産業振興ビジョンの実現に向けまして、御協議いただいている推進委員会のほうで策定のほうを行うことで、より効率的に策定できることを期待しております。

所沢市産業振興ビジョン推進会議の委員構成といたしましては、公募による委員が1名、産業関係団体の代表者が5名、産業支援機関の職員が1名、知識経験を有する者が3名、関係行政機関の職員が1名の全11名となっております。

任期は2年間で、現在の委員の任期は、令和8年5月10日から令和10年5月9日となっております。

最後に、今後のスケジュールについて御説明いたします。

策定作業につきましては、令和8年度と令和9年度の2年間で行う予定でございます。令和8年度は策定のための基礎調査として、人流分析調査や基礎的情報の収集、市内事業者や関係団体へのヒアリング調査等を行うほか、策定支援の委託業者事業者からの提案のあった調査等を行い、次期ビジョンの骨子案を策定する予定です。

次期ビジョンの策定につきましては、支援業務委託事業者と行う予定でございまして、業務の進捗に関しましては、随時、推進会議にて報告と情報共有を行ってまいります。

推進会議は、進捗状況に応じまして、今年度、4回から5回の開催を予定しております。

令和9年度につきましては、今年度作成の骨子案を基に次期ビジョンの素案を策定し、市民へのパブリックコメントの実施をした後に、推進会議、市役所庁内の意見の最終調整を行いまして、ビジョンの完成を目指してまいります。

推進会議におきましても、進捗状況に応じまして、4回から6回の開催を予定しております。

私からの説明は以上でございます。

○大石健一委員長 ありがとうございました。

説明は終わりました。

なお、委員の皆様に申し上げます。

今回は、産業振興ビジョンという形で説明を受けましたが、今回、所管事務調査、それ以外に「リノベーションまちづくり、まちづくり会社」ということで掲げております。

また、前回視察をいたしました、ももたろう・スタートアップカフェとか、呉市のリノベーションまちづくりとか、松山市のまちづくり会社とか、商店街の取組とか、それから、今回は農業振興課を呼んでおりませんので、農業以外の件で御質問を幅広くしていただいて結構です。

それで、これは産業振興ビジョンに今後の我々の課題として含まれるので結構です。

ただ、ライオンズ関係の狭山丘陵の件と、それから、新所沢パルコの件は、この後、説明

を聞いてからまた質疑をしますので、それ以外の件で、先ほどの大坂さんと二宮さんの開陳の件を含めて御質疑していただければと思います。

それでは、御質疑をお願いいたします。

○末吉美帆子委員 ありがとうございました。

今、とこペイを配布して、市民の方がお使いになっていらっしゃると思います。

先ほど、和ヶ原商店街さんのほうから、トコちゃんスタンプをというお話ありましたけれども、松山市にお伺いしましたときに、PayPayが導入される前からまちペイを導入していた。各商店街が持っているトコちゃんカードのような従来の各商店街の独自のポイント制度も連携をしていくというお話があって、もうできるのだということが私たち一同思ったのですけれども、現状を含めて御説明いただけますか。

○齋藤経営企画担当参事 まず、とこペイは5月の中旬から配布を始めまして、大変な反響がございました。かなりいろんな課題というのが見えてきたところでございます。

先ほど御質疑にありましたように、アプリに対する利用者側の難しさであったり、店舗側の扱いであったり、それから、資金の決済の問題であったり、そういったいろんな課題がここで見えてきたと感じております。

今後、とこペイを、さらなる活用という意味では、先ほどお話があったトコちゃんスタンプのような商店街のポイントとしての活用というのも十分考えられると思いますので、今後どのようにそういった商店街ポイントとして活用できるかというのは積極的に検討してまいりたいと考えております。

○末吉美帆子委員 アプリでインストールして、それを使わなければいけないというのと、もう一つはカード、送ってきていただきましたけれども、例えば、交通系ICカードのように、カードで使うというやり方もありますよね。

現状のとこペイだと、もうインストールしたら、これは捨てていいからという話だったと思うのですけれども、そこら辺はどうですか。というのは、スマホでないアプリが入らない携帯をお使いになっていらっしゃる方もいますし、それから、様々なことを考えると、カードのほうが使いやすいということもあるかと思います。

とこペイだったら、地元で使えるということにおいて、地元の商店街の皆様非常にその点のメリットは大きいかと思うのですけれども、そこも含めて、カード併用とアプリということはどうなんでしょうか。

○齋藤経営企画担当参事 おっしゃるとおり、カードのほうが利用者にとっては使い勝手はかなりいいものだと考えております。ただ、一方で、店舗側においては、それが負担になってしまうということもございます。

そのよしあしというものも今後検討していく一つの課題だと考えておりますので、もし商

店街で利用するということになったときは、よく商店街と話し合っ決めていきたいと考えております。

○長谷川礼奈委員 トコちゃんカードととこペイをもし連携するとなると、追加で予算とかが必要になってくるのか、そのあたりをお伺いしたいです。

○齋藤経営企画担当参事 おっしゃるとおり、現在のシステムのままでは商店街で利用することはできませんので、商店街の皆様で利用していただくということになれば、市の今のとこペイのシステムの多少の改修というものは必要になると考えておりますので、その分の費用というのは発生するということになると思います。

○長谷川礼奈委員 資料だと、10月に連携したいと書かれているのですけれども、それには間に合いそうでしょうか。

○齋藤経営企画担当参事 10月にスタートするかどうかというのもまだ検討が必要かと思いますが、いずれにしても、必要な段階で必要なシステムの改修をしていくと考えております。

もう一つ、付け加えさせていただきますと、今入れているシステムというのはほかの市町村でも使われているシステムでございまして、改修というものはそんなに大がかりなものではなく、そういった商店街ポイントとして利用できるというような機能がもともとソフトとして持っている認識しております。

○長谷川礼奈委員 ほかの自治体でも同じような取組をされていたら、具体的にどういう自治体でやっているのか聞きたいです。

○齋藤経営企画担当参事 この辺りで大きなところで申しますと、さいたま市が同じ企業のアプリを使っております。

○長谷川礼奈委員 とこペイとトコちゃんカード連携については、商業観光課は応援、PRとか、その辺は関わっているのか伺います。

○松本商業観光課長 経営企画課での検討状況というのは随時、情報共有をしていただいているところでございます。

○長谷川礼奈委員 もし、このアプリとかを改修するとなると、その費用は市が負担するのか、商店街が負担するのか。

○齋藤経営企画担当参事 まず、商店街側で負担すべき費用というものはある程度は発生する可能性もあると考えています。その切り分けというものはこれから協議していきたいと考えております。

○青木利幸委員 とこペイとトコちゃんカード、これの連携というのはある程度協議しているということですか。

○齋藤経営企画担当参事 まだ具体的な詳細は煮詰まってはいませんが、そういう話はいただいて、こちらからもそういう活用ができないかと相談させてもらっている状況でござい

す。

○青木利幸委員 その場合、例えば、ほかの商店街もそういった話がもしかすると出てくると思うのですよ。今、和ヶ原商店街の方と話をしているという段階だと思うのですけれども、今後、ほかの商店街もとこペイと連携できるのだったら、またやりたいなという商店街も出てくるのではないかと思うのだけれども、和ヶ原商店街さんだけではなくて、ほかの商店街も募集するとか、話を聞くとか、そういったことは考えるのか。

○齋藤経営企画担当参事 まず、和ヶ原商店街のポイントとして活用するというのというのは一つの例として検討している状況でございます。もし、商店街としてこのポイントを使うということ、機能を備えるということになれば、それはほかの商店街の皆様にも広めていかなければいけないと考えておりますし、そういった声をかけていきたいと考えております。

商店街のことについては、以上でございます。

また、とこペイが、今、大体17万ダウンロードをされている状況で、かなり広くダウンロードされております。このまま、今回の事業はもう10月末で終了でございますが、今後の展開ということにも十分検討していきたいと考えております。

○石原 昂委員 ありがとうございます。

とこペイの話なのですけれども、今回の事業が終了した後も今後の展開というのは最初から含みがあつたと思います。

各商店街さんで手を挙げて、青木委員がおっしゃったように、私もやりたいということになれば、それはシステムのほうを和ヶ原商店街さんが先行しているので、そういった対応はできると、今の流れの話だと思うのですけれども、当初から含みがあつた。そうすると、今度、地域通貨のほうはどうなるのだと。東村山市のアインPayだとか、そこのシステムはそれはそれであるのか。商店街さんは商店街さんで、各商店街さんの中でも連合さんとしてのお話をしていかなきゃいけないのか。あるいは、ほかの業種、商店街以外のところのステークホルダーの方々と協議をしていかなければいけないのか。その地域通貨も含めた構想としてはいかがでしょうか。

○齋藤経営企画担当参事 今使っているとこペイにつきましては、いわゆる地域通貨としての機能も備わっております。そのために、今後、恒常的な地域通貨として発展できるかというのは、今まさに検討しているところでございます。

もう一つ、とこペイの今のシステムの中ではいろんな環境をつくれる仕掛けになっておりますので、例えば、地域通貨は地域通貨、この商店街にはこの商店街というような、環境を簡単に換えられるような機能も備わっておりますので、そういったところも、こういった使い方ができるかというのを今後検討していきたいと考えております。

○青木利幸委員 今、とこペイが17万ダウンロードと言っていましたけれども、ということ

は、所沢市民約34万人なので、約半分ですか。こどもとかお年寄りとか、できない方、いろんな病気の人もいるのだろうけれども、ちなみに、マイナンバーカードは大体どのくらい分かりますか。8割くらいだったかと思うが。

○齋藤経営企画担当参事　マイナンバーカードの正確な保持率は把握していませんけれども、8割くらいだったと記憶しております。

○植竹成年委員　先ほど、せっかく産業振興ビジョンの策定について、説明があったので、その辺についてお伺いしたいのですけれども、令和8年度、令和9年度として、今、調査研究し、策定素案をつくるということで、まずは、この産業振興ビジョンというのは、そもそも、工業、農業、観光、様々な業種が、所沢市に関わる産業関係のものがビジョンとして示されているのだけれども、その中で、これまで、せっかく今日、お二方の商店街組合の組合長さんが来られたのでお伺いしますけれども、商店街、商業観光という点で、このビジョンを基に、所沢市はどのような振興というか、支援というものに取り組んできたのか、まずはお伺いします。

○松本商業観光課長　現行の所沢市産業振興ビジョンにおきましては、主要施策3-1-4のところに、商店街の活性化という項目がありまして、主にここで商店街の支援を行っているというところでございます。

予算を使つての支援ということになりますと、ここにも記載がありますけれども、主に補助金を支出した形での商店街、商店会の活動をサポートするということになりますが、具体的に申し上げますと、魅力ある商店街創出支援事業、それから、もう一つが空き店舗活用新規創業支援出店補助事業というものがございまして、こうしたものを使いながら、商店街、商店会の活動を支援しているところでございます。

○植竹成年委員　そうすると、必要な予算、お金を各商店街のほうに交付して、空き店舗といたつたようなものを利活用してもらうような取組を進めているということなのだけれども、今日せっかく来られている方々にいろいろと、こうしてほしいという要望がありましたら、例えば、高齢者が住みやすいまちづくりとして商店街を考えているとか、市有地の利活用、様々、そのような要望があったのですけれども、今、これまで取り組んでいる補助金制度の支援のほかに、今後、次のこの産業振興ビジョンを策定する上で、まだ、現段階では方向性は示されないのだろうけれども、具体的に新たな商業振興というか、商店街に対する支援強化というものを今どのように考えているのか、お伺いします。

○松本商業観光課長　2点ございまして、1つ目は、実際に次のビジョンに記載できるかどうか分かりませんが、先ほどの答弁で申し上げましたとおり、予算を使つての支援ということでは、主に、先ほど申し上げた2つの補助金の事業があるということですが、決してこれに限らず、普段からできるだけ商店街、商店会の方々とはフェース・トゥ・フェ

ースでお話をするですとか、機会を捉えて、できるだけお話、コミュニケーションを増やして、その中で、できる、できないは別にして、いろんな要望ですとか、悩み事ですとか、課題ですとか、そういったことの聞き取りをしているというのが実情でございます。それが1点目。

もう1点目は、実際に、ビジョンにどのように書いていくかというところでございますけれども、一つありますのは、商店街の活性化ということで、先ほど申し上げましたけれども、もう一つが、中心市街地の活性化ということについても、今のビジョンの主要施策3-1-2のところに記載がございまして、これは、具体的に言いますと、中心市街地ということで、中心市街地のにぎわいの創出ということで、中心市街地には、今、中心市街地活性化拠点施設、野老澤町造商店、通称まちぞうというものがございまして、これについての支援もしているところなのですけれども、実際、ノウハウの継承ですとか、人材の継承といったことを考えますと、まちづくり会社というのも課題を解消する重要な施策の一つ、可能性のある取組の一つになるかなと思っておりますので、実際、これは検討を進めているところではございますので、推進会議の中でも、策定に当たりましては、こういったところも議論をしながら、次のビジョンに記載したほうがいいよねというような会議での議論に進んでいけば、そのようなことになるのかなと考えております。

○大石健一委員長 この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長の職務を行います。

○大石健一委員 それでは、結局、先ほどの大坂さんの発言や二宮さんの発言があったわけですけれども、やはりエリアによってお考えになっていることは違うわけですよ。今回の東の商店街と西の商店街とで全然違うじゃないですか。片や商店街ができたばかりで、勢いのある人たちと、和ヶ原商店街はもう何十年もあって、成熟して、周りに住んでいる人は所沢市内でも高齢化しているから、高齢者に優しいまちづくりを進めていこうという形じゃないですか。

今回、新所沢東の商店街は都合により御出席いただけませんでしたけれども、パルコの跡地のことも含めて、新所沢周辺のまちづくりや小手指だって違うし、西所沢だって、今、リノベーションまちづくりは結構盛んに進められているわけですけれども、それぞれ課題が違っていくではないですか。

そこはやはり特に顕在化していく必要があると思うので、それぞれ商店街の話を聞かなければいけないと思うのですけれども、まず、その点はどのように産業振興ビジョンできちんと商業振興政策を進めていく上で、お話を聞いて生かしていくのか、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

○松本商業観光課長　これも2点ありまして、先ほどと同じようなパターンになってしまうかもしれませんが、1点目につきましては、先ほど申し上げた1点目のとおり、できるだけ商店街の方々には直接御意見ですとか御要望の聞き取りをしようとしているところでございますので、商店街の方々から、自分たちはこうしたいんだ、ですとか、こういった課題を抱えているけれども、行政のほうで何か支援はしてもらえないのかみたいなことがあるようでしたら、それにできるだけ沿った形で、行政として支援の手を差し伸べていきたいと考えておりますので、参考人で来られた和ヶ原商店組合の大坂さんですとか、東所沢商店組合の二宮さんですとか、こういった意見を持っていらっしゃると、こちらとしても、できる、できないは別にして、とても考えやすいなと考えているところでございます。それが1点目。

2点目は、これも産業振興ビジョンにどう書くか、書く場合にはどう書くかというところですが、それぞれの商店街、所沢市には38ありまして、実際にそのエリアの属性ですとか、大きさですとか、そういったこともまちまちなので、できるだけ丁寧に御意見とかお考えを聞きながら、支援の在り方を考えていくということには尽きるのですけれども、それをビジョンに記載する場合には、どういった記載文になるかというのも、推進会議の議論の中でどのように位置づけられるのかというのは考えていきたいなと現状では考えているところでございます。

○大石健一委員　東所沢については、COOL JAPAN FOREST構想の推進が、まち・ひと・しごと創生総合戦略の一丁目一番地、それから、産業振興ビジョンにも大きくうたわれているわけですが。また、所沢駅周辺中心市街地につきましても、所沢駅周辺まちづくり基本構想があって、駅周辺はにぎわいをそれなりに生んできました。けれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中でも、第6次所沢市総合計画後期基本計画においても、新所沢と小手指のエリアで、課題に、まちづくりについて取り組んでいまいしょうという形でうたっているわけじゃないですか。だから、それに基づいて、ほかの東所沢のCOOL JAPAN FOREST構想とは、今まで予算をかけて力を入れてきたのと所沢市周辺に多額の予算をかけてきたけれども、それ以外の部分でどう取り組んでいくかというのが大事ではないかなと思うのですけれども、その点についてお考えをお聞かせください。

○松本商業観光課長　委員御指摘のとおり、計画に既にかかれていた文言を踏まえて、このエリアの商店街活動をしっかり支援していくということを具体的にこのビジョンにも位置づけていくことのメリットは当然あると思います。

一方で、先ほど申し上げましたとおり、38商店街あって、エリアも属性もまちまちというところもありますので、そういった方々の感じ方といいますか、バランスも当然取っていく必要もあるのかなと思っておりますので、実際記載するかどうか、どのように記載するかにおいては、そういったことも勘案しながら検討していく必要があるものかなと考えておりま

す。

○長谷川礼奈副委員長　それでは、委員長と交代します。

○末吉美帆子委員　ありがとうございました。

私たちは、この委員会で、昨年、和歌山市に行ったときに、巨大な地下駐車場の委託先が見つからず、まちづくり会社が受けて、それと共に、その上の広い土地に広場を造っていて、そのイベントをやる際に、何しろ駐車場があるので、イベントに来る市民の方にとって非常に利便性があり、見た感じでは大成功しているなと思いました。

先ほど、中心市街地というお話がありましたけれども、市営の駐車場などもありますし、例えば、商店街であったり、これからいろいろなものをやるときに、駐車場とかは必須になってくるかと思います。それと同時に、市有地の活用という話が何回も出ましたけれども、例えば、東所沢のように、マルシェをやる場所とか、それから、駐車場を臨時で使えるのもいいからというときの市有地ですよ。公有地の利活用ということに関してどのように考えておられるのか、お伺いをしたいです。

それから、もう1点が、先ほど、和ヶ原商店街の無料買い物バスを出しておられるというお話を伺いました。やはりこれから先、ところワゴンなどもそうですけれども、買い物難民であったり、交通不便地域の足ということが非常に重要ですけれども、印象的だったのは、この買い物に来て、初めて人と話をする方もいらっしゃるということで言えば、例えば、ネット通販で家に来ればいいじゃないとか、そういうことだけではないのだろうなと思わせて、この商店街振興のための足、それについて、例えば、それぞれの商店街だったり、それぞれの地域で考えればいいのか、そこについての支援を出せばいいのか、それとも、全体で考えるべきなのか、お考えを教えてくださいと思います。

○齋藤経営企画担当参事　御質疑にございました市有地の活用ということに関しましては、やはり地域の皆様がここの公有地を使いたいというお声があったときは、その際にはきちっとそういうお声に応えていかなければいけないのだと考えております。

同時に、公有地全体といたしましては、やはり市民の貴重な財産でございますので、そのまま寝かしておくことは避けなければいけないと考えております。

○松本商業観光課長　買い物バスにつきましては、先ほど、委員からの御質疑だと、個別に考えていくのか、全体で考えていくのかという御質疑だったかと思いますが、商業観光課としましては、商店会、商店街支援というところが自分たちの持ち分ということもございますので、現時点では、和ヶ原商店街振興組合においての買い物バス事業というのは非常に頼もしく思っておりますし、ありがたいことだと思っております、その部分での支援をしていきたいと考えております。

全体となりますと、福祉施策にも近いところにもなってくるかと思っておりますので、現状で

は商業観光課ではそこまで考えが及んでいないというところでございます。

○末吉美帆子委員 では、確認ですけれども、どちらかというと、その地域を知り抜いている商店街の皆さんからの御意見が重要、それを待つみたいな感じですか。

○松本商業観光課長 商店街活動も、これは大切な事業だと思いますけれども、当然、予算があつての事業化だったり、その部分で商業観光課として資金的に御支援をしていくというのが今の枠組みでございますので、商店街の活動としてそういったことをお考えになったときは、積極的に背中を押していきたいという考えで捉えているところでございます。

【質疑終結】

休　　憩（午後３時５分）

再　　開（午後３時１２分）

○大石健一委員長 再開します。

それでは、議事に入ります。

○所管事務調査「新所沢パルコ跡地の活用」

○大石健一委員長 所管事務調査事項「新所沢パルコ跡地の活用」を議題といたします。

それでは、理事者側より概要説明をお願いします。

○田島経営企画課主幹 それでは、新所沢パルコ跡地の活用について、これまでの経緯と市が所有する土地の活用について御説明申し上げます。

新所沢パルコは、令和6年2月末をもって閉店となりました。その跡地活用につきまして、新所沢パルコの閉店前の令和5年7月以降、本市を含めた複数の地権者の会議体である新所沢パルコ将来計画検討会において10回にわたり協議、検討が行われてまいりました。当検討会での協議内容につきましては、本件が一般の地権者が数名、数社いらっしゃる民間事業であり、個人の財産や権利に関わるデリケートな事案であるため、検討会内におきまして、部外秘とすることが取り決められておりました。その間、市といたしましては、地元の新所沢地区町会連合会からの要望及び新所沢駅周辺まちづくり特別委員会からの提言を踏まえ、要望の実現に向け、かつ住居系のマンションのみにならぬよう、さらには一刻も早く活用の方向性が定まることを念頭に、関係者に対し意見を申し述べてまいりました。

そのような中、令和7年3月末になりまして、全ての地権者の合意が調いましたことから、市議会や新所沢地区町会連合会、近隣の商店会の皆様へ一定の報告をさせていただいたところでございます。市といたしましては、民間事業者が進めるままであれば、共同住宅になりそうだったところを、地域の方々や市議会からの要望について機会があるたびに関係者へ伝え続けてきた結果、商業施設を誘致することができたこと、また、複数の地権者がいる本件におきましては、よりスピード感を意識して取り組んだことで、閉店の約1年後に決定できたことはよい結果であったと捉えております。

それでは、改めまして、民間事業者による具体的な開発事業の内容を説明いたします。

本日の資料は、住民説明会を主催いたしました株式会社長谷工コーポレーションと住友商事株式会社より御提供いただいたものを配付しております。

まずは、旧新所沢パルコの建物解体につきましては、令和7年5月に着手され、令和8年11月末に工事が完了し、更地となる予定でございます。左側に示しております共同住宅、旧Let's館側のほうでございますが、この建物につきましては、総合地所株式会社、大栄不動産株式会社、株式会社長谷工コーポレーションの3つの事業者により、マンションの建設が進められることとなります。右側に示しております商業施設、旧PARCO館側の建物建設につきましては、住友商事株式会社により、スーパーマーケットのヤオコーを中心とした物品販売業を営む店舗一部サービス店舗の建設が進められることとなります。

次に、旧新所沢パルコ敷地内に市が所有する自由通路、PARCO館とLet's館との南北の方向に設けられた通路、通称ガレリアでございますが、こちらは住民要望に沿った活用をして

いく中で、ガレリアの土地の形状のままでは活用方法が限られることなどの理由から、株式会社長谷工コーポレーションが所有する敷地と等価交換し、約491㎡を市の所有としたものでございます。

続きまして、共同住宅の概要について御説明申し上げます。

構造・規模は、鉄筋コンクリート造・地上15階建て、高さ44.9m、住戸数は280戸、敷地面積につきましては5,138.22㎡、新築工事期間は、令和8年12月1日から令和11年3月末までの予定をしております。

続きまして、商業施設の概要につきまして御説明申し上げます。

構造・規模は、鉄骨造・地上3階建て、敷地面積は3,586.05㎡、工事期間は、令和8年12月1日から令和10年4月までの予定でございます。建物の用途につきましては、1階に駐車場、2階にスーパーマーケットのヤオコーを予定しており、3階は物販サービスのテナントとなる予定でございますが、現在のところ、どのような店舗が入るかにつきましては未定であると伺っております。

なお、この共同住宅と商業施設の計画につきましては、新所沢地区町会連合会の皆様に対して、解体工事や計画の概要など、民間事業者からの説明や民間事業者との意見交換などの場を設けてまいりました。また、地元のパルコ南通り商店会につきましては、これまで新所沢パルコと連携した取組をされていたこともあり、新たに開店するヤオコーとの連携を図っていききたいという意向がありましたことから、住友商事株式会社と株式会社ヤオコーとの面会の機会を設けさせていただいたところではございます。

市有地につきましては、面積が491.80㎡となります。当該用地の活用方法は、本市が第6次総合計画後期基本計画において掲げている「こどもを中心としたまちづくり」を念頭に、地域の魅力が高まるような活用方法として、地域の子育て環境の充実に活用する方向としていところでございます。現在、新所沢地区町会連合会や地元商店街の御要望を踏まえつつ、有効な活用方法について庁内で調整を図っているところでございます。

○大石健一委員長 それでは、ただいまの説明に対して質疑を求めます。

○石原 昂委員 ヤオコーができることが先に発表されて、住友商事株式会社は後発で参入してきたんですけれども、事業主はあくまで住友商事株式会社ですね。住友商事株式会社と株式会社ヤオコーの間での、土地と建物の契約形態や事業スキームについてどうなっているか確認をさせてください。

○齋藤経営企画担当参事 現在把握しておりますのは、土地と建物は住友商事株式会社が所有し、株式会社ヤオコーはキーテナントとして入ると伺っております。

○石原 昂委員 それは、事業用借地権だとか、権利の形態までは御存じないということでしょうか。

○齋藤経営企画担当参事 賃貸借の契約形態までは把握しておりません。

○植竹成年委員 説明会で出てきた市民からの要望について確認したいところがあるんですけども、解体が終わって、地下駐車場だった掘り下げているところを埋めていく工事が今始まっているんですけども、いよいよ建物が建つに当たって、共同住宅と商業施設が同じような形で進んでいく上で、工事車両が国道沿いと駅側の道路の2つのところから入ってくると。その上で、今まで入り口ではなかった駅側の道路が今度車両の入り口となることによって、非常に交通安全について危惧されていました。

この工事中の交通安全対策は、施工事業者に任せるものなのか。市としてできるところの交通安全対策がどのようなものなのかお伺いします。

○齋藤経営企画担当参事 まずは、事業者である、例えば、ヤオコー側であれば住友商事株式会社であったり、マンション側であれば株式会社長谷工コーポレーションであったりが事業者の責任において安全対策を取るべきものと考えているところでございます。

一方で、市側としてはどういったことをすればよいかという問題がございます。市といたしましては、これまでも解体工事中に騒音の苦情などもいただいたところがございます。そういった苦情が市のほうに入ってくれば、速やかに改善を促すということは考えております。

また、住民の皆様が不安に考えられていらっしゃる、例えば、通学路、通学時間帯の安全対策などについては、こういう打合せの場が事業者側とございますので、そういった場でしっかり伝えていきたいと考えております。

○植竹成年委員 ちょうど今、通学路と出てきたんですけども、幾つかの事業者と今後協議していく中で、市に対してスクールゾーンの変更などが求められた場合には、実施可能なのか、協力には応じていく姿勢でいくのか、それとも、あくまでも施工事業者が交通安全というものを図っていくものなのか、その辺どのように考えているのか伺います。

○齋藤経営企画担当参事 現在行っております解体工事におきましても、解体工事事業者が学校のほうに御説明に上がりまして、通学路への支障などの調整を図られたと聞いております。今回、新築工事におきましても、そういったことを教育委員会と学校と調整を図っていただくように事業者には伝えてまいりたいと思っております。

○植竹成年委員 市有地について、事業者に市として様々なことを要望していくことを我々としては望んでいたんですけども、実際に説明会の中では、そのような声はまだ届いていない、そのような協議はまだされていないということでした。

この市有地の活用について、施工事業者との連携というものをどのように考えているのかお伺いします。

○齋藤経営企画担当参事 まず、我々としたしましては、事業者側に対しまして、先ほど申し上げましたとおり、地域の子育て環境の充実に資するような使い方をしていきたいという

ことは、これまでも事業者側に申し述べてまいりました。ただ、市のほうで具体的にどういったものを建てるかとか、どういったふうにするかという土地の利用の検討が少し進んでいなかったこともあって、具体的な調整というものが図られなかったという経緯でございます。

○植竹成年委員　そうすると、具体的な形として市はいつまでに提案するというスケジュールをどのように考えるのか、お伺いします。

○齋藤経営企画担当参事　マンションの建設が令和11年の春に終わると伺っておりますので、そのあたりには市有地の供用が開始されていったほうがいいということは考えております。

○植竹成年委員　前回の説明会は、大石委員長から情報提供をいただき私はその日にやることを認識したんですね。恐らく今この質問を聞いて、ほかの委員の皆さんは、いつ説明会をしたかも多分認識されていない状況にあるのかなと思うんです。あのときの説明会では、まだ設計事業者が決まっておらず、中身の具体的な話はできなかったもので、今後、説明が必要なきときには住民説明会を行っていくということを言っていました。

今後、具体的に説明会の連絡が担当部署にきた場合、我々にも伝えることが可能なのか、ぜひしていただきたいと思っているんですけれども、その辺どのように考えるのかお伺いします。

○齋藤経営企画担当参事　4月25日と30日に、株式会社長谷工コーポレーションによるマンション側の住民説明会が、7月23日に住友商事株式会社による、まちづくり条例に基づく住民説明会が行われたところでございます。

また、今後予定されていると伺っておりますのは、大規模小売店舗立地法に基づく住民説明会が株式会社ヤオコーさんのほうから開かれると伺っておりますので、そうしたことが分かれば、議会のほうに情報提供はしてまいりたいと思います。

○末吉美帆子委員　商業施設の予定工期が2028年の4月末で、住居のほうで2029年の3月末ということになっていきますけれども、少しずれがあるということは、商業施設のほうで早く終わることによってよろしいですね。それで、市有地の工事は、どこら辺を目途にしているのか、それも併せてお伺いします。

○齋藤経営企画担当参事　遅くともマンションの入居が始まる頃には市有地の活用もされているという状況をつくっていきたいと考えております。

○末吉美帆子委員　そうすると、確認なんですけれども、例えば、小手指の西友は店舗のほうで先にオープンしますけれども、ここもそうだと思うのでよろしいんですか。

○齋藤経営企画担当参事　明確にスーパーマーケットの開店日の情報はいただいていないところでございますが、竣工に1年ぐらいの差がございますので、おのずと店舗の開店のほうが早くなると考えております。

○末吉美帆子委員　それから、先ほど、子育てに資する施設というお話がありましたけれど

も、その「子育て」というもののある意味の定義で言えば、例えば、保育園であるとか、小さな子どもが遊びに行く場所であるとかというイメージなんですけれども、例えば、若者であるとか、どこまでを「子育てに資するもの」という認識で思っておられるんですか。

○齋藤経営企画担当参事　地元からの要望ですとか、商店街からの御要望としては、多世代の方が交流できるような、また、若者の居場所づくりとか、若者がいられる場所をつかっていくというものがいいんじゃないかという御意見もいただいているところでございますので、そういったことも念頭に入れながら、これから計画していきたいと考えております。

○末吉美帆子委員　子育て関連の施設には、こどもも含めてのある意味、幅広く柔軟に考えているという理解でいいですか。

○齋藤経営企画担当参事　委員おっしゃるとおりでございます。

○大石健一委員長　この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

○長谷川礼奈副委員長　それでは、委員長の職務を行います。

○大石健一委員　商業観光課長に質問しますが、この間、新所沢パルコ南通り商店会の人たちが、経営企画課が対応して、住友商事株式会社及び株式会社ヤオコーさんとの話し合いをしたんですけれども、その内容について、特にどんなことを言っていたか、把握をされていますか。

○松本商業観光課長　現時点では、まだ、細かい情報提供は受けておりません。

○大石健一委員　そこは問題がありまして、パルコ南通り商店会の木立さんが参考人に来ていただきましたので、確認しましたがけれども、商店街への加盟や、照明灯とかの防犯体制への協力、それから、市有地も含めまして、にぎわいの創出への御協力という形でお願いをしているんです。

さらに、市有地の活用についての課題が一つあって、図面を見れば分かるけれども、このマンション建設の特にB棟のほうは、市有地に何が建つかとか、何に活用するかで、B棟の住民に対する影響が大きいわけですよ。だから、マンションの供用が開始されているときでは遅くて、マンションが販売され、その重要事項説明のときには、ここは市有地として、にぎわいの創出なども検討事項ですというのを不動産販売業者から説明してもらう必要があるということを私は思ったんですけれども、それについてお考えをお聞かせください。

○齋藤経営企画担当参事　市有地の活用方法につきまして、今後、詳細が決まりましたら、もちろん、マンション販売事業者にもきちっと伝えてまいりたいと考えております。

○大石健一委員　結局、気にしてほしいのは、地域のにぎわいや魅力づくりのために商店街がマルシェをやったりとか、子育て空間のための場所をつかって、こどもの声が響く場所をつくったりとかしますよ。そうしたら、マンション業者から住民が住んでいるのに何だと言

われてしまうんですよ。だから、特にB棟の人たちに販売をするときには、市がにぎわいづくりとか、魅力づくりのために使うから、音が出る可能性もあるというのを販売業者から説明してもらわなきゃいけない可能性があるということをお理解いただきたいのと、この市有地の活用方法に思い切った考えを申し上げると、子育て世代のためだけの施設じゃなくて、もともと地元の要望の中に、スターバックスコーヒーを残してほしいとか、カルディを残してほしいとか、具体的にそういうのがあるわけですよ。新所沢パルコというのは、新所沢のブランド力を高めていた施設だけれども、個別名称だけれども、スターバックスコーヒーがあったから、皆さんがそこで勉強したり、仕事したり、コワーキングスペース的に使ったりとかできたわけですよ。

では、ここは思い切って、スターバックスを誘致しようとか、にぎわいづくりのためとか、地元の要望でもう既にあるコワーキングスペースをつくるとか、そういうことも含めてサウンディング調査をするとか、公民連携の中でできることがあると思うんですけれども、お考えを聞かせていただきたいと思います。

○齋藤経営企画担当参事 まず、面積が約490㎡とそんなに大きくない土地という中で、こういった建物が建てられるのかや、どういう利用ができるのか、どうやってにぎわい創出ができるのかというのは、これまでも民間事業者に対してヒアリングを重ねてまいりました。スターバックスコーヒーを誘致するというような、具体的なサウンディング調査はしておりませんが、今後、官民連携の取組として、いろんな事業者から、いろんな可能性を探っていきたいと考えております。

○大石健一委員 住民説明会のときに、私は株式会社ヤオコーさんに対して質問したけれども、議会で、特に私も一般質問において、例えば、この市有地と商業施設の行き来ができて買った食べ物を食べられたりとか、にぎわい、魅力づくりのための民間の活用ができて、マルシェを合同で開いたりとかできるように、公民連携を進めてくださいと、私はこれまで何度も言ってきたけれども、結局、株式会社ヤオコーさんからは、初めてその話を聞きましたと答えられたわけですよ。

どうして相手に伝わらないのかが僕には理解できなかったんだけど、それについて、前の担当者なのかもしれないけれども、お答えいただきたいと思います。

○齋藤経営企画担当参事 まず、大前提といたしまして、この土地を3分割して、それぞれ民間事業者のほうで計画を進めていく中では、個別の開発事業として進められてきたという経緯がございます。その中で、最大限、調整を図ってきたというような状況でございます。

これまでも、市といたしましては、事あるごとに市としての要望ですとか、住民の要望ということは申し述べてきたところございまして、前回の住民説明会の中で話を聞いていないという御答弁がございましたが、市としては、これまでもこういった使い方をしていくと

いうことはずっと伝えてきたつもりでございます。

○大石健一委員 では、もう少し細かいことを聞きますけれども、説明会で株式会社長谷工コーポレーションさんにも聞いたけれども、15階建ての建物が建って、住友商事株式会社さんの3階建ての建物との間が、恐らく5mぐらいだと思うんですよ。そうすると、5mぐらい空いているほうが、意外にも風がすごく吹き抜ける空間になると思うんです。この所沢市民が持っている財産のところに吹き抜けてくるところだと思うんだけど、配慮はしてくれないのは分かっていたんだけど、そこをどう解決していくのか。

結局、事業者からは答えられませんみたいな答弁しかもらっていないんだけど、私は、ここは広場として使いにくいと思っているけど、その辺は事業者と打合せもせずに進んできたんですか。所沢市だったら、ここにビル風が吹くと分かるわけで、30階建ての建物とは違うけれども、その点についての話合いとか議論はなかったですか。

○齋藤経営企画担当参事 委員がおっしゃられるような、風の影響を考慮してほしいというような、具体的な調整はしたことはありません。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長と交代します。

○大石健一委員長 以上で、説明員に対する質疑を終了いたします。
ここで暫時休憩いたします。

休 憩（午後3時42分）

再 開（午後3時43分）

○大石健一委員長 再開いたします。

○所管事務調査「狭山丘陵の魅力づくりとボールパーク」

○大石健一委員長 次に、所管事務調査事項「狭山丘陵の魅力づくりとボールパーク」を議題といたします。

それでは、理事者側より概要説明をお願いします。

○村田商業観光課主幹 狭山丘陵の魅力づくりとボールパークということで、まず、埼玉西武ライオンズとの連携について御説明させていただきます。

埼玉西武ライオンズが所沢市にありますことは、観光客の誘致についての貢献はもちろんのことですが、何より市民の誇りでございますし、所沢市を象徴する存在の一つと捉えております。加えまして、ブランドイメージの向上や地域のスポーツ振興など、様々な地域活性化に御貢献をいただいているところでございます。

埼玉西武ライオンズとの連携につきましては、県内市町村が連携協定に関する基本協定を締結しておりますライオンズフレンドリーシティの枠組みを活用いたしまして、ライオンズホームゲーム時の自治体PRですとか、市内保育施設、市内小学生を対象とした野球体験イベント等を実施しております。加えまして、埼玉西武ライオンズのホームタウンであります所沢市との連携事業も複数行われております。

また、一例でございますけれども、現在、7月31日から8月26日に実施中でございますイベントのAOFES（アオフェス）がございます。イベントの開催に当たりましては、ナイターゲーム前の所沢の空をコンセプトとしているユニフォームが作成されまして、これを市職員の約2,000人が着用をすること、紙でできたフラッグのようなものを執務室へ貼り付けることや、各所でDVDなどの放映なども行いました。こうしたことを通じ、テーマであります「街を、心を、青に染めろ。」の実現に向けまして、まず、ホームタウンの所沢市を青に染めることから広げていくと、このための協力を実施してまいりました。このほかにも、交流戦の初優勝をした際には、所沢市役所1階のプロスポーツコーナーで特別展示を実施してまいりました。また、本市をホームタウンとする埼玉西武ライオンズ、さいたまブルンコスといったプロスポーツチーム、それと所沢市の3者による意見交換を行いまして、プロスポーツによる地域の活性化施策につきまして協議をする機会を設けるなど、様々な連携に取り組んでまいりました。

続きまして、狭山丘陵の魅力づくりの御説明をさせていただきます。

所沢市西部に広がります狭山丘陵は、ベルーナドームに加えて、CAR3219フィールド、狭山スキー場、西武園ゆうえんちといった西武グループが持つレジャー施設だけではなく、首都圏でも代表的な里山の景観やトトロの森に象徴されるような雑木林や動植物等の豊かな生態系など、水と緑の豊かな地域が残されておりまして、全国から四季折々に多くの人々が訪れる観光交流拠点を形成しているなど、本市の魅力発信において欠かせないエリアでござ

います。今後、新たな人の流れが生まれることを視野に入れまして、それぞれの持つ魅力をより高めることで、本市の多彩な魅力を発信していくことが重要であると考えております。

狭山丘陵の魅力づくりに関する取組といたしましては、狭山丘陵を囲む6自治体等で組織されます狭山丘陵観光連携事業推進実行委員会を組織しておりまして、委員会の取組といたしまして、狭山丘陵のマップの作成ですとか、参加団体共同で、毎年、PRイベントの実施等を行っております。このほかに、本市の単独の取組といたしまして、狭山湖周辺への駐車場の設置ですとか、シェアサイクル事業などによりまして、多くの方々に狭山丘陵の魅力に触れていただける機会を創出しております。また、観光ガイドブックですとか、観光PRポスター、市ホームページ、SNS、広報誌等を活用いたしまして、魅力の発信、PR等に努めているところでございます。

○大石健一委員長 それでは、5月に埼玉西武ライオンズに説明を受けましたけれども、それも踏まえまして、執行部に対しまして質疑をお願いします。

○末吉美帆子委員 西武球団が地域貢献をたくさんやってくださっているのも知っているし、市の皆さんが心を青に染めて応援しているのもよく知っているのも、そこについては、これ以上何かしろとかということはないんですけれども、やっぱり今一番大事なのは、周辺整備、ボールパークとかが全く進んでいない感じがあるんですね。今度、西武球場前駅のリニューアルをするという発表があり、できることを一生懸命やろうとしているというのは大いに伝わるんですが、例えば、エスコンフィールドHOKKAIDOは、周辺のボールパーク化をどんどん進めていて、再来年度には駅もできる。このように周辺整備がめちゃくちゃ進んでいる印象を受けるんです。その意味で言えば、この間の視察のときに、駐車場周辺では、恐竜館がそのままであるとか、あれだけの土地があるんだけれども、なかなか活用されていないということが見て取れました。

例えばですけれども、あの辺りの緑の中にスパのような入浴施設があるとか、何かしら全体として、もう少し整備をしていけないものかなと。今のままだとやっぱりボールパークじゃないかなという気はするんですけれども、そこについて考えをお聞かせください。

○市川経営企画部長 まず、エスコンフィールドHOKKAIDOとの違いというところで難しいところがあるという点と、やはり今おっしゃっていただいた土地のほとんどが西武鉄道株式会社の持ち物であって、よくCOOL JAPAN FOREST構想との比較なんかもされますが、株式会社KADOKAWAの土地は、もともとは市有地だったところを売却したことによって、株式会社KADOKAWAにはこういう活用をしてくださいという縛りをつけることができたというところがまず1点あると思います。

確かに私たちも、いわゆる西武球場の周りがボールパークであるとか、人がにぎわうような立地になっていくということは望んでいるところではあるんですが、なかなか行政として

手を出せる部分というのが限られてくるということが課題としてはあるかとは思っております。

○小池産業経済部長 末吉委員がおっしゃられるとおり、私どもといたしましても、やはり一緒に地域の活性化というのを図っていきたいと考えております。産業経済部としてですけれども、どうしたことをすれば地域がより活性化するのか、そうしたことを積極的に考えていきたいなと考えております。

1点申し上げますと、ボールパーク化については、狭義と広義があるかと思います。議会の中でよく話題になるのは、広義の、要はまちづくりにつながるようなボールパーク化の話をされますけれども、埼玉西武ライオンズといたしましては、今の状況でもボールパーク化というのは進めているんだということをよくおっしゃっておりますので、そうしたところは私どもも気をつけて考えなければいけないなと思っているところでございます。

○末吉美帆子委員 イベントが終わった後に会場の周りが大渋滞するというのは当たり前のことなんですけれども、それにしても道路事情やアクセスが悪過ぎるというのが1点ありますよね。今回、西武線とJRがつながるというニュースがありましたけれども、特に道路のことは行政と全く話し合ったことがないと西武さんはおっしゃっていたので、そういった話はどうなのですか。

○市川経営企画部長 確かに、道路を造ってもらいたいであるとか、もしくは拡幅であるとかを西武鉄道株式会社のほうから求められたというのは、私の記憶にはないところではございます。しかし、当然、道路整備などが進めば、あの辺りへの動線というのは整理されてくるというところはあるかと思いますので、今後、西武鉄道株式会社とお話をさせていただける機会があれば、そういった意向なども含めて確認はしていきたいと思います。

○大石健一委員長 この際、委員として質疑したいので、所沢市議会会議規則第116条の規定により、副委員長と交代します。

○長谷川礼奈副委員長 それでは、委員長の職務を行います。

○大石健一委員 昭和54年に西武ライオンズがやってきたときに、どういう議論があったかと議事録を見直してみると、西武ライオンズが勝手にやってきたんだから、西武鉄道株式会社が道路も造れというような議事録が残っています。別に所沢市が誘致したんじゃなく、ある日突然来たわけで、「鉄道で輸送しますから大丈夫です」みたいな世界になった。所沢市のまちづくりにおいては、それが大前提として来たということをぜひ理解してほしい。

所沢市総合計画の中に、必ずボールパークの言葉は入れていってくださいと、当時の担当の松本さんをお願いして入った。そして、総合戦略の中にもちゃんとボールパークと入れてくださいとして入った。だから、今度は産業振興ビジョンをつくるときに、埼玉西武ライオンズに行って、話を聞いて、どうこの地域を盛り上げるかというのを、きちんと産業振興ビ

ジョンとして打ち出していくべきだと思っているんですよ。

都市計画マスタープランでは、「所沢駅周辺まちづくり基本構想」がある所沢駅周辺と「COOL JAPAN FOREST構想」があるところざわサクラタウン周辺が交流エリアに選ばれている。都市計画マスタープランの交流エリアに西武球場前駅周辺エリアも入っているけども、ここには武蔵野ボールパーク構想とか、狭山丘陵ボールパーク構想とかがない。だから、構想をちゃんとつくって、西武鉄道株式会社と話をし、もし都市計画的にできるのであれば、株式会社KADOKAWAにしたように規制緩和をしていって、そして、ちゃんと所沢市にも雇用とか税収とか、もちろん、にぎわいとか、シビックプライドとか影響を及ぼすように。そういう構想を本当は47年前につくらなくちゃいけない。

所沢市が誘致したわけじゃないから、どうぞやってくださいみたいな世界になっているんだけど、AOFESが今回開かれて、球団もやっぱり所沢のことをみんなで盛り上げようとなりました。所沢市議会の総務経済常任委員会も47年目にして初めて案内してもらった。球団も変わってきたな、鉄道も変わってきたなと思うので、その点を御理解していただいて、この産業振興ビジョンをつくるのがいいきっかけになるんだから、そこに組み込んでいっていただきたいと願いますが、お考えをお聞かせください。

○市川経営企画部長 大石委員のおっしゃるとおりでございまして、確かに埼玉西武ライオンズ、西武鉄道株式会社の行政に対する協力体制というのは、数十年前と比べると、随分軟らかくなってきたと思いますし、胸襟を開いていただけていると感じているところでございます。ですので、例えば、市の計画にどの程度盛り込んでいけるかというところは、やはり相手方とお話をさせていただいた上で、どこまでが可能なのかと考えていきたいと思います。

○小池産業経済部長 私どもといたしましても、今まで以上に埼玉西武ライオンズ、西武鉄道株式会社等とは一緒にまちづくりをしていかなければいけないなと日頃から思っているところでございまして、昨年から今年にかけては、私どもといたしましては、そうしたところにも尽力をまいりました。そうした結果として、今があるのかなんかと思っはいるんですけども、これからのこうした関係性というのはもっと強くつくっていきたいと思っておりますし、それをどのような形で計画に載せていくのか。今、事業者側の話もありましたけれども、これは審議会に諮問をして、答申をいただくものですから、その審議会のほうでどこまで書くことを許容できるのか、もっと書けという話になるのか、それは書き過ぎじゃないのかという話になるのかは分かりませんが、そうしたところは踏まえながら、何らかの形で次期産業振興ビジョンには、西武鉄道株式会社との、埼玉西武ライオンズとの連携というんでしょうか、そうしたまちづくりについての文言を載せていければなと思っております。

○大石健一委員 小池部長に聞きたいけれども、我々、サトイモだけじゃなくいろいろやってきていて、それを産業振興ビジョンに含めていっていただきたいと思っているわけですよ。

ボールパーク構想なんかも、もし皆さんの御賛同がいただければ、委員会で産業振興ビジョンに、埼玉西武ライオンズのボールパーク構想を入れてくださいよみたいな提言を上げられたらと思っているんだけど、そういうのはちゃんと伝えていただけますか。

○小池産業経済部長　そうした御提言をいただけるということであれば、むしろ、それをもって埼玉西武ライオンズ側、西武鉄道株式会社側にお伝えすることも容易ですし、また、審議会のほうにも、そうした結果をもってお話しすることがより産業振興ビジョンに記載するための、ある意味担保みたいになるのかなと思います。

○長谷川礼奈副委員長　それでは、委員長と交代します。

○中井めぐみ委員　狭山丘陵の緑も守ったボールパークにしていくという方向にしていきたいなと思っていますがお考えをお聞かせください。

○村田商業観光課主幹　今回のテーマにつきましては、狭山丘陵の魅力づくりとして、ボールパークが主なテーマとなっておりますが、もちろん、狭山丘陵全体で見ますと、緑というのは所沢市にとって大切な資源でございますので、そこも含めて計画が進むよう、我々もコミュニケーションを取っていきたいと思います。

○大石健一委員長　以上で、説明員に対する質疑を終了いたします。

ここで、協議会を開催するため、暫時休憩します。

休　　憩（午後４時４分）

再　　開（午後４時７分）

○大石健一委員長　再開します。

○大石健一委員長　　以上で、本日の調査を終了いたします。

大変お疲れさまでした。

散　　会（午後４時８分）

総務経済常任委員会

令和8年8月10日(月)

開 会 午前 ・ 午後 1 時 3 0 分
散 会 午前 ・ 午後 4 時 8 分
場 所 全員協議会室

委 員 長	大 石 健 一	✓
副 委 員 長	長谷川 礼 奈	✓
委 員	末 吉 美帆子	✓
〃	中 井 めぐみ	✓
〃	植 竹 成 年	✓
〃	青 木 利 幸	✓
〃	入 沢 豊	✓
〃	石 原 昂	✓

議 長	粕 谷 不二夫	
-----	---------	--

●説明員等出席表

【総務経済常任委員会】 令和8年8月10日

説明員等			
部局	課	職名	氏名
経営企画部		部長	市川 勝也
経営企画部		次長	並木 茂幸
経営企画部	経営企画課	参事	齋藤 伸宏
経営企画部	経営企画課	主幹	田島 幸雄
経営企画部	経営企画課	主幹	富澤 博章
産業経済部		部長	小池 純一
産業経済部		次長	加賀谷 春恵
産業経済部	産業振興課	課長	石川 純也
産業経済部	商業観光課	課長	松本 圭四郎
産業経済部	商業観光課	主幹	村田 貴紀
産業経済部	商業観光課	主査	名雪 晋佑
産業経済部	商業観光課	主査	安蔵 恭兵

議会事務局			
部局	課	職名	氏名
議会事務局		主査	谷口 周
議会事務局		主任	並木 大和